



山口ふるさと伝承総合センターの、豎小路に面した建物「まなび館」では、伝統的な和風建築を味わいながら伝統文化について学ぶことができます。明治19年（1886）杉助右衛門が営む酒造商家として建てられ、外観はほぼ当時の様子をとどめています。

店と住居が一体になった「町家」と呼ばれる日本の伝統建築で、前面には採光や風通しにすぐれた格子が用いられ、中から外は見えますが外からは中が見えにくくなっています。木造の家が密集している町では火災がつきものでした。虫籠のような目の細かい縦格子を漆喰で塗り固めた虫籠窓や、防火壁としての袖壁を備えています。



杉家は山口の有力町人で、明治6年豎小路小学（現大殿小学校）創立に際し、萬代利七、片岡又右衛門らとともに寄付しています。杉酒場建造と同年野田神社が落成し、上棟式神能で鷲流狂言が上演され、山口伝承の始まりとなりました。その前年明治天皇の山口行幸の際、同行した杉孫七郎（宮内省出仕）は杉助右衛門邸



明治19年上棟の棟札

を宿舎としています。杉孫七郎は助右衛門子息に自身の幼名を与えており、親戚関係だったかもしれません。井上馨も明治21年来山時ここに滞在しました。井上は大神宮祭礼の花角力見物に出かけ、賭けに勝って菜香亭で料理をご馳走になっている、と杉助右衛門に宛てた手紙が残っています。

大正期に酒造業を野村栄太郎が受け継ぎ、野村酒場と称されるようになりました。ブランド酒「美や古」は甘口だったそうです。

昭和59年（1984）野村益治氏は店を閉じ、建物・土地を山口市に寄贈されました。長寿社会事業の一環として改築整備され、地域の産業や文化の伝承、観光振興に活かすとともに、市民の学習や交流の場として平成3年（1991）山口ふるさと伝承総合センターが開館しました。

瓦葺きの屋根は直線ではなく、棟から軒先に向かって中ほどが盛り上がっている「むくり屋根」です。寺院に見られる「そり屋根」は中国等の影響による建築様式で、権威・荘厳さを感じさせます。むくり屋根は、日本独自に発展してきた様式で、腰をかがめたような姿から低姿勢・丁寧さを表し、商人の家屋に多く用いられたといわれています。



# 6月スケジュール

教室 OB会

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
5/31	6/1	2	3	4	5	6
	和裁	陶芸A	陶芸A	陶芸B	大内塗	陶芸B
	和裁 型染①	トール	バッチ③	和裁 レザー①	大内塗	手織
7	8	9	10	11	12	13
	和裁			レザー レザー②③		
	和裁 型染②		バッチ① 染色	和裁 バッチ②	手織	和裁
14	15	16	17	18	19	20
	和裁				大内塗	手織
竹細工	和裁 型染③	トール	バッチ③	和裁 レザー①	大内塗	大内塗
21	22	23	24	25	26	27
	和裁	トール		レザー レザー②③		
	和裁 型染④		バッチ① 染色	和裁 バッチ②	手織	和裁
28	29	30	7/1	2	3	4
	和裁	床フックス			大内塗	手織
竹細工	和裁		バッチ③	和裁 レザー①	大内塗	手織



建物を支える木材にはおもに松や、木目が美しく強度が高いケヤキの太い材が使われ、重厚な建物になっています。梁は太い箇所では直径45cmあり、財力のほどを窺わせます。

部材の削り痕に、近代和風建築を支えた職人達の仕事の痕跡をご覧ください。非常時に退避できるよう、2階への階段は跳ね上げ階段（隠し階段）となっています。

裏手にあった醸造場は取り壊されて残っていませんが、県内で2番目に大きい規模だったそうです。敷地内には井戸が2つ残されており、ゲンジボタルの飼育に利用されています。まなび館庭園の一角にある大きな樽を伏せた形の「酒樽茶室」は、大酒樽4樽分の良質材のみを使用し、戦後造られた全国的にも珍しいものです。扉も形に合わせて湾曲しており、今は銅板の屋根ですがかつては檜皮葺でした。



土蔵も主屋とともに国の登録文化財の建物で、漆喰塗りで耐火性にすぐれ、大事なものの、美術品や文書・道具類などが保管されていました。現在は6月から10月



にかけて、ホテルの幼虫の飼育場として利用されています。

野村益治氏は仕事のかたわら、生涯を通じて書・画・茶道具類などを収集しました。土蔵内に収められていた数百点のコレクションを保存し、広く公開するため昭和57年洞春寺境内に香山文芸館を創設、現在のむら美術館として、収蔵品のうち数十点を常時展示しています。（土曜日・日曜日・祝日のみ開館 1月は休館 10:00~16:00 入館料 200円）

野村氏お気に入りの美術工芸品が、床の間や座敷を飾っていた当時を想像してみたいはいかがでしょうか。

## まちづくりNEWS ◆ミニ暮音小路◆

豎小路は、石州街道から札の辻交差点を北に折れる道で、中国山地を超えて日本海に抜ける道の入り口にあたります。大内氏の時代からメインストリートであり、近世は大名行列の通る萩往還道でもありました。明治中期に建てられた現まなび館の外観は、同時期に築かれた庭園の赤松とともに、百年以上も豎小路のシンボルとして往時の景観を今に伝えています。その正門に、1か月以上にわたり休館の表示を掲示することになりました。今はまだ、一部の利用制限がありますが、一日も早く完全な形での再開ができるように感染拡大防止に努めて参りますので、ご協力のほどお願いします。

指定管理者 ~NPO 法人山口まちづくりセンター~

### 山口ふるさと伝承総合センター発行

〒753-0034 山口市下豎小路 12  
TEL 083-928-3333 FAX 083-932-1877  
E-mail y-densho@c-able.ne.jp  
URL <http://y-densho.sblo.jp/>

館内見学時間  
9:00~17:00  
入場料 無料